

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	大学スポーツ研究活動資源活用事業		担当部局庁	スポーツ・青少年局		作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度・未定		担当課室	競技スポーツ課		競技スポーツ課長 杉浦 久弘			
会計区分	一般会計		政策・施策名	スポーツの振興 X II-3 我が国の国際競技力の向上					
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—		関係する計画、 通知等	スポーツ基本計画(平成24年3月30日策定) スポーツ立国戦略(平成22年8月26日策定) スポーツ振興基本計画(平成18年9月21日改定)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学は、競技団体(以下「NF」という)と連携した体制の下、大学の有する資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、先駆的な研究に基づいた強化を実施している。こうした大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という)、国立スポーツ科学センター(以下「JISS」という)、NFのワークショップでコーチや研究者などに普及・啓発を図ることで我が国全体の競技力の向上を目指す。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進する。 また、JISS、NTCを活用し、当該大学以外のコーチングスタッフや研究者などに対して研究成果などを実践的に普及する。								
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託・請負 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☐ その他								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		補正予算		50	50	50	—		
		繰越し等		—	—				
		計		50	50	50	—		
	執行額			47	43				
	執行率(%)			94.0%	86.0%				
成果目標及び成 果実績 (アウトカム)	成果指標				単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル獲得数			成果実績	メダル獲得数			夏季:38	夏季:39 冬季:11
				達成度	%			100.0%	
活動指標及び活 動実績 (アウトプット)	活動指標				単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進した大学数			活動実績 (当初見込み)	か所		5	5	—
						(5)	(5)	(5)	
単位当たり コスト	1大学当たりのコスト(8,655,776円/1か所)			算出根拠	単位当たりコスト=平成24年度大学スポーツ研究活動資源活用事業執行額 (43,278,878円)/大学数(5大学)				
平成 25 ・ 26 年度 予算 内訳	費 目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	職員旅費、スポーツ振興事業委託費		50百万円		平成25年度限りで廃止				
	計		50百万円						

事業所管部局による点検						
	項 目			評 価	評価に関する説明	
国費 要 入 の 性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			○	本事業は、スポーツ基本計画の「トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築」においてその必要性が明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業であり、また、トップアスリートの活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動などをもたらすものであり、広く国民のニーズがある事業である。なお、オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得といった事業目的を達成するためには、統括競技団体、中央競技団体及び強化・研究関係機関との連携を図りながら事業を進めることが重要であることから、国が総合的に推進していく必要がある。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○		
	明確な政策目的（成果目標）の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。			○		
事業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	支出（委託）先の選定に当たっては、十分な公告期間を確保した上で公募（企画競争）を実施しており、その妥当性や競争性を確保しているところ。 なお、委託事業の契約及び委託額の確定手続きに当たっては、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っているところである。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			○		
	単位当たりコストの水準は妥当か。			○		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			○		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）			—		
事業 の 有 効 性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			○	大学に対する委託事業として実施しているが、効果的にトップアスリートの競技力向上につなげるべく、統括競技団体、中央競技団体と協議し、効率的かつ実効性の高い運用を行っているところ。 また、当該事業は「スポーツ基本計画」に基づき、オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得といった定量的な目標値を設定した上で実施しており、自己評価を行うなど、着実な実施に努めている。 さらに、当該事業で得られた研究成果（報告書）は、統括競技団体、中央競技団体、強化・研究拠点等と共有を図るために連携・協力して行うワークショップや合同合宿を実施することで、オールジャパンでの効率的活用ができるような措置を実施しているところ。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○		
重 複 排 除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。（役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）			—		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点 検 結 果	・予算の執行状況に係る点検方法については、委託先団体から提出される委託事業完了報告書、証拠書類（賃金出納簿、見積書、納品書、請求書、領収書等）により適切な執行がなされているか、検査を行った。 ・資金の流れ、使途の点検方法については、定例的に事務担当者との連絡を取り、事業の進捗状況と経費支出状況を聴取することで、適切な執行がなされているか確認を行った。 ・活動実績に係る点検方法については、委託先団体から提出される委託事業完了報告書により、事業の実施内容や目標の達成度合いについて確認している。 ・事業成果としては、5大学に対し委託を行い、国全体として戦略的にトップアスリートのための強化・研究活動を行う体制の整備が推進された。 ・本事業により、トップアスリートのための強化・研究活動を行う体制の整備等が推進され、ロンドンオリンピック競技大会においては過去最多を超えるメダルを獲得することができたものの、「金メダルランキング5位以上」は達成することができなかったため、今後は限られた予算の範囲内でいかに効果的に事業を実施し、統括競技団体、中央競技団体、強化・研究拠点等といかに効率的に情報共有を図っていくかが課題であり、事業内容の精査を図っていく必要がある。					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所期の目標を達成したことから、平成25年度をもって廃止することとしている。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
—						
備考						
スポーツ基本計画について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/index.htm スポーツ立国戦略について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm スポーツ振興基本計画について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014.htm						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	—	平成23年	新23-0080	平成24年	0382

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省 43百万円

職員旅費 0.1百万円を含む

ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学は、競技団体(以下「NF」という)と連携した体制の下、大学の有する資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、先駆的な研究に基づいた強化を実施している。こうした大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という)、国立スポーツ科学センター(以下「JISS」という)、NFのワークショップでコーチや研究者などに普及・啓発を図ることで我が国全体の競技力の向上を目指す。



【公募・委託】

A. 大学スポーツ研究活動資源活用事業:43百万円
大学(全5大学)

ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進する。
また、JISS、NTCを活用し、当該大学以外のコーチングスタッフや研究者などに対して研究成果などを実践的に普及する。

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額
が支出されている
者について記載
する。費目と使途
の双方で実情が
分かるように記
載)

A.順天堂大学			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	合宿旅費・研修旅費	5			
設備備品費	ハイスピードカメラ、レーザー速度計測システム等	3			
その他	印刷製本費、諸謝金、消耗品費、通信運搬費	1			
一般管理費	一般管理費	1			
計		10	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A. 大学スポーツ研究活動資源活用事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	順天堂大学	陸上競技、体操競技における競技者の画像・動作分析システムを活用した競技力向上方策に関する研究	10	企画競争	—
2	国立大学法人信州大学	スピードスケート競技における高所環境下の高強度トレーニングによるリカバリーに関する研究	10	企画競争	—
3	至学館大学	女子レスリング競技における競技者と指導者の試合での判断の一致度測定を活用した指導方法に関する研究	9	企画競争	—
4	国立大学法人筑波大学	柔道競技におけるバイオメカニクス的研究手法を用いた技術分析に関する研究	8	企画競争	—
5	日本体育大学	コーチ教育プログラムの開発及びエリートアスリート育成システムの構築に関する研究	6	企画競争	—
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					